



# 令和5年度 事業報告書



学校法人武庫川学院

<b>I. 法人の概要</b>	<b>1</b>
1. 立学の精神	1
2. 主な沿革	1
3. 設置する学校、学生・生徒・園児数	2
4. 役員等の概要	4
5. 組織	5
<b>II. 事業の概要</b>	<b>7</b>
1. 中期計画の概要	7
2. 武庫川女子大学・大学院、武庫川女子大学短期大学部	11
3. 武庫川女子大学附属中学校・附属高等学校	13
4. 武庫川女子大学附属幼稚園	14
5. 武庫川女子大学附属保育園	15
6. 事務局	16
<b>III. 財務の概要</b>	<b>17</b>
1. 令和5年度決算の概要	17
2. 計算書等の経年比較等	21

# I. 法人の概要

## 1 立学の精神

本学院の教育は、建国の理想に遵(したが)い、平和的な国家及び社会の形成者として、高い知性と善美な情操と高雅な徳性とを兼ね具(そな)えた有為な女性を育成するにある。特に女子総合学院の特質に鑑(かんが)み、一貫教育の方針を堅持し、わが国女性の伝統的美風を尊重して、その民族的使命を自覚するとともに、個性豊かな文化を創造して、新日本の建設に貢献し得べき女性の養成を期し、その使命達成のために学園を挙げてその力を致す。

## 2 主な沿革

昭和 14 年2月 25 日	校祖・公江喜市郎が財団法人武庫川学院を創設
昭和 14 年4月1日	武庫川高等女学校開校
昭和 21 年4月1日	武庫川女子専門学校開校
昭和 22 年4月1日	武庫川学院中学校開校(平成 7 年、武庫川女子大学附属中学校に改称)
昭和 23 年4月1日	武庫川学院高等学校開校(平成 7 年、武庫川女子大学附属高等学校に改称)
昭和 24 年4月1日	武庫川学院女子大学開学(昭和 33 年、武庫川女子大学に改称)。学芸学部設置
昭和 25 年4月1日	武庫川学院女子短期大学開学(昭和 60 年、武庫川女子大学短期大学部に改称)
昭和 26 年3月5日	財団法人武庫川学院を学校法人武庫川学院に組織変更認可
昭和 33 年4月1日	学芸学部を文学部と家政学部に変更
昭和 34 年4月1日	音楽学部設置
昭和 37 年4月1日	薬学部設置
昭和 41 年4月1日	武庫川女子大学大学院修士課程開設
昭和 54 年4月1日	武庫川女子大学附属幼稚園開園
昭和 56 年9月 25 日	理事長・学院長に日下晃就任
昭和 60 年4月1日	武庫川女子大学専攻科開設
平成元年4月1日	武庫川女子大学大学院博士後期課程開設
平成2年6月1日	米国ワシントン州スポケーン市にアメリカ分校開設
平成6年4月1日	家政学部を生活環境学部に変更
平成 13 年4月1日	理事長・学院長に大河原量就任
平成 22 年4月1日	武庫川女子大学附属保育園開園
平成 27 年4月1日	看護学部設置
平成 31 年4月1日	教育学部設置
令和2年4月1日	食物栄養科学部、建築学部、経営学部設置
令和5年4月1日	心理・社会福祉学部、社会情報学部設置

### 3 設置する学校、学生・生徒・園児数

#### (1)設置する学校

(令和5年5月1日現在)

学校名等	学部・研究科等	学科	課程等
武庫川女子大学大学院	文学研究科	日本語日本文学専攻	修士・博士後期
		英語英米文学専攻	修士・博士後期
		教育学専攻	修士
		臨床心理学専攻	修士
	臨床教育学研究科	臨床教育学専攻	修士・博士後期
	健康・スポーツ科学研究科	健康・スポーツ科学専攻	修士
	生活環境学研究科	食物栄養学専攻(学生募集停止)	修士・博士後期
		生活環境学専攻	修士・博士後期
	食物栄養科学研究科	食物栄養学専攻	修士・博士後期
		食創造科学専攻	修士・博士後期
	建築学研究科	建築学専攻	修士・博士後期
景観建築学専攻		修士・博士後期	
薬学研究科	薬学専攻	博士(4年制)	
	薬科学専攻	修士・博士後期	
看護学研究科	看護学専攻	修士・博士後期	
武庫川女子大学専攻科	音楽専攻科	声楽専攻 器楽専攻	
武庫川女子大学	文学部	日本語日本文学科	
		英語グローバル学科	
		教育学科(学生募集停止)	
		心理・社会福祉学科(学生募集停止)	
	教育学部	教育学科	
	心理・社会福祉学部	心理学科	
		社会福祉学科	
	健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	
		スポーツマネジメント学科	
	生活環境学部	生活環境学科	
		食物栄養学科(学生募集停止)	
		情報メディア学科(学生募集停止)	
		建築学科(学生募集停止)	
	社会情報学部	社会情報学科	
	食物栄養科学部	食物栄養学科	
		食創造科学科	
	建築学部	建築学科	
		景観建築学科	
	音楽学部	演奏学科	
		応用音楽学科	
薬学部	薬学科		
	健康生命薬科学科		
看護学部	看護学科		
経営学部	経営学科		
武庫川女子大学短期大学部	日本語文化学科		
	英語キャリア・コミュニケーション学科		
	幼児教育学科		
	心理・人間関係学科(学生募集停止)		
	健康・スポーツ学科(学生募集停止)		
	食生活学科 生活造形学科		
武庫川女子大学附属高等学校		全日制 普通科	
武庫川女子大学附属中学校			
武庫川女子大学附属幼稚園			
武庫川女子大学附属保育園		付随事業	

## (2)学生、生徒、園児数

(令和5年5月1日現在)

学校名等	学部・研究科等	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
武庫川女子大学 大学院	文学研究科	56	18	118	46
	臨床教育学研究科	22	12	50	36
	健康・スポーツ科学研究科	20	3	40	12
	生活環境学研究科	8	3	20	12
	食物栄養科学研究科	16	7	32	15
	建築学研究科	31	25	65	59
	薬学研究科	34	6	74	14
	看護学研究科	20	16	45	44
	計	207	90	444	238
武庫川女子大学 専攻科	音楽専攻科	10	2	10	2
武庫川女子大学	文学部	350	277	2,014	1,853
	教育学部	240	260	1,010	1,040
	心理・社会福祉学部	220	218	220	218
	健康・スポーツ科学部	280	208	860	828
	生活環境学部	165	171	1,150	1,212
	社会情報学部	180	185	180	185
	食物栄養科学部	280	294	1,150	1,086
	建築学部	85	93	340	360
	音楽学部	50	28	200	141
	薬学部	250	205	1,420	1,142
	看護学部	80	95	320	350
	経営学部	200	223	800	830
	計	2,380	2,257	9,664	9,245
武庫川女子大学 短期大学部	日本語文化学科	100	32	200	75
	英語キャリア・コミュニケーション学科	100	22	200	50
	幼児教育学科	150	56	300	151
	心理・人間関係学科(学生募集停止)	—	—	100	49
	健康・スポーツ学科(学生募集停止)	—	—	80	46
	食生活学科	80	38	160	93
	生活造形学科	90	52	180	121
	計	520	200	1,040	585
武庫川女子大学 附属高等学校	全日制(普通科)	480	214	1,410	689
		※1		※1	
武庫川女子大学附属中学校		240	129	800	436
		※1		※1	
武庫川女子大学附属幼稚園		—	41	105	108
武庫川女子大学附属保育園(付随事業)		—	—	90	99
				※2	※2

※1:募集定員 ※2:令和5年4月1日現在

## 4 役員等の概要

### (1)役員（理事：定数7人以上9人以内、監事：定数2人又は3人）

（令和6年3月31日現在）

役職	氏名	就任年月日	常勤	主な現職等
理事長	大河原 量	昭和60年4月1日	○	武庫川学院学院長
理事	瀬口 和義	平成23年6月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部学長
理事	世良田 重人	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学附属高等学校・中学校校長
理事	大河原 遼平	平成30年4月1日		弁護士
理事	山崎 彰	平成27年4月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部副学長
理事	善塔 貴美子	令和3年5月1日		貴和商事(有)取締役
理事	高橋 享子	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学食物栄養科学部長
監事	谷本 敏子	令和2年11月1日		武庫川女子大学名誉教授
監事	塚田 茂	令和3年7月1日		(学)女子美術大学法人参与

※役員の実任限定契約及び役員賠償責任保険契約の状況

#### 責任限定契約の状況

非業務執行理事及び監事と責任限定契約を締結しています。  
 ・対象役員の氏名  
 非業務執行理事：大河原 遼平、善塔 貴美子  
 監事：谷本 敏子、塚田 茂  
 ・契約内容の概要  
 非業務執行理事及び監事がその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金50万円以上であらかじめ定められた額と私立学校法において準用する、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする契約内容です。

#### 役員賠償責任保険契約の状況

役員個人が損害賠償請求を受けるリスクの軽減のため、日本私立大学協会が加盟校向けに創設した「私大協役員賠償保険制度」に加入しています。保険の更新にあたっては毎年度、理事会で決議を行っています。  
 ・保険内容：役員賠償責任保険  
 ・契約者（団体）：日本私立大学協会  
 ・保険期間中総支払限度額：5億円  
 ・被保険者  
 記名法人：学校法人武庫川学院  
 個人被保険者：理事及び監事、評議員、執行役員、管理職従業員、社外派遣役員、退任役員  
 ・引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

### (2)評議員（定数18人以上24人以内）

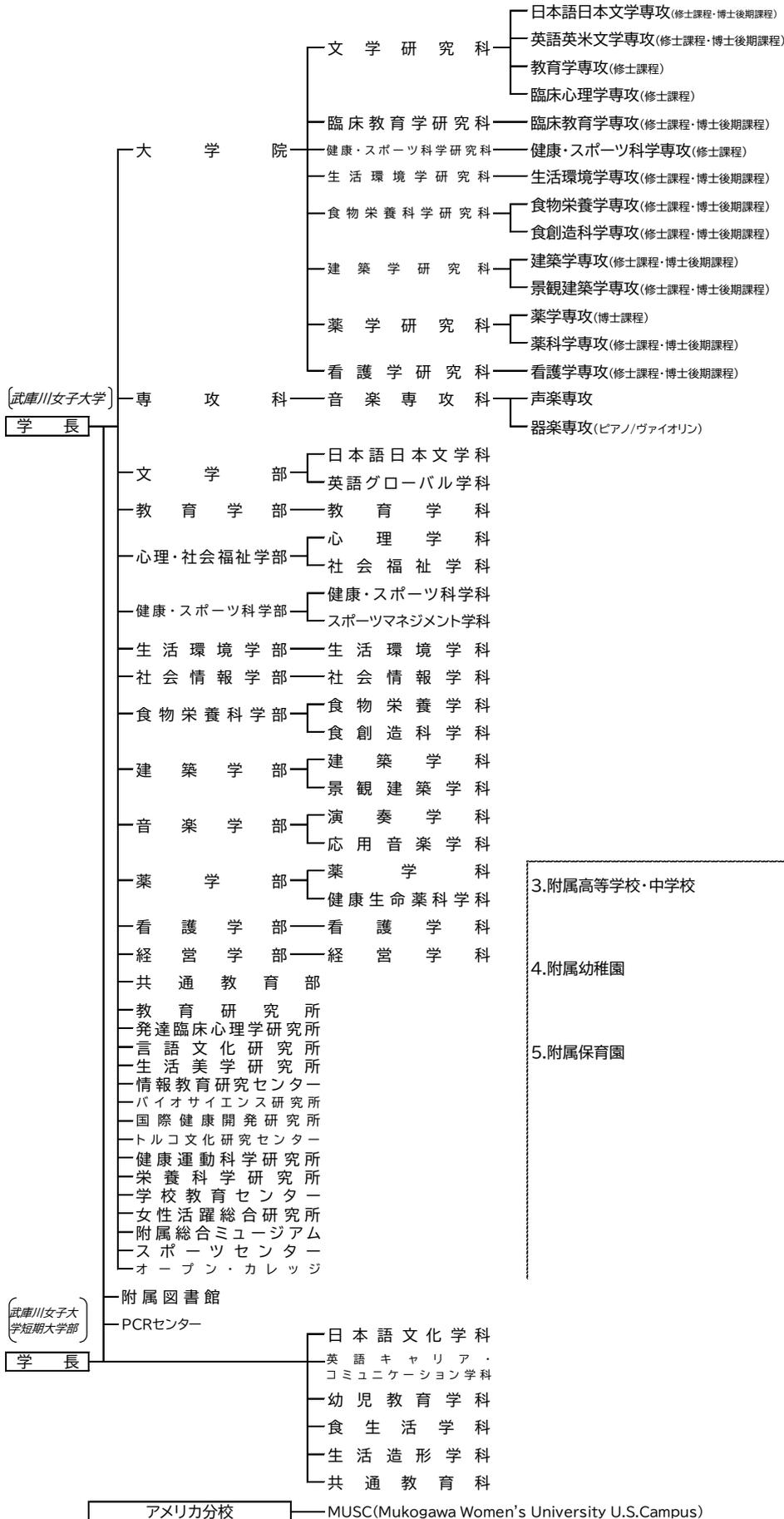
（令和6年3月31日現在）

氏名	就任年月日	常勤	主な現職等
大河原 量	昭和60年4月1日	○	武庫川学院学院長
山崎 彰	平成23年6月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部副学長
瀬口 和義	平成20年4月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部学長
世良田 重人	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学附属高等学校・中学校校長
松本 玲子	平成17年2月18日		医師
大河原 遼平	平成29年11月1日		弁護士
公江 茂	平成19年2月18日	○	武庫川学院特別顧問
河合 優年	平成30年4月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部副学長
高橋 享子	令和2年4月1日	○	武庫川女子大学食物栄養科学部長
安藤 明人	令和5年4月1日	○	武庫川女子大学心理・社会福祉学部長
渡邊 完児	令和5年4月1日	○	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部長
三好 庸隆	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学生活環境学部長
篠塚 和正	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学薬学部長
茅野 宏明	令和4年4月1日	○	武庫川女子大学共通教育部長
瀧居 豊	令和2年4月1日	○	武庫川学院事務局長
橋本 光能	令和5年4月1日	○	武庫川女子大学・同短期大学部教学局長
善塔 貴美子	平成23年4月1日		貴和商事(有)取締役
永田 隆子	平成29年7月1日		武庫川女子大学オープンカレッジ所長
辻村 智子	令和5年7月1日		武庫川女子大学・同短期大学部教育後援会長
田下 尚美	令和5年7月1日		武庫川女子大学附属高等学校・中学校教育友会長

# 5 組織

## (1) 教学組織

令和5年4月1日現在



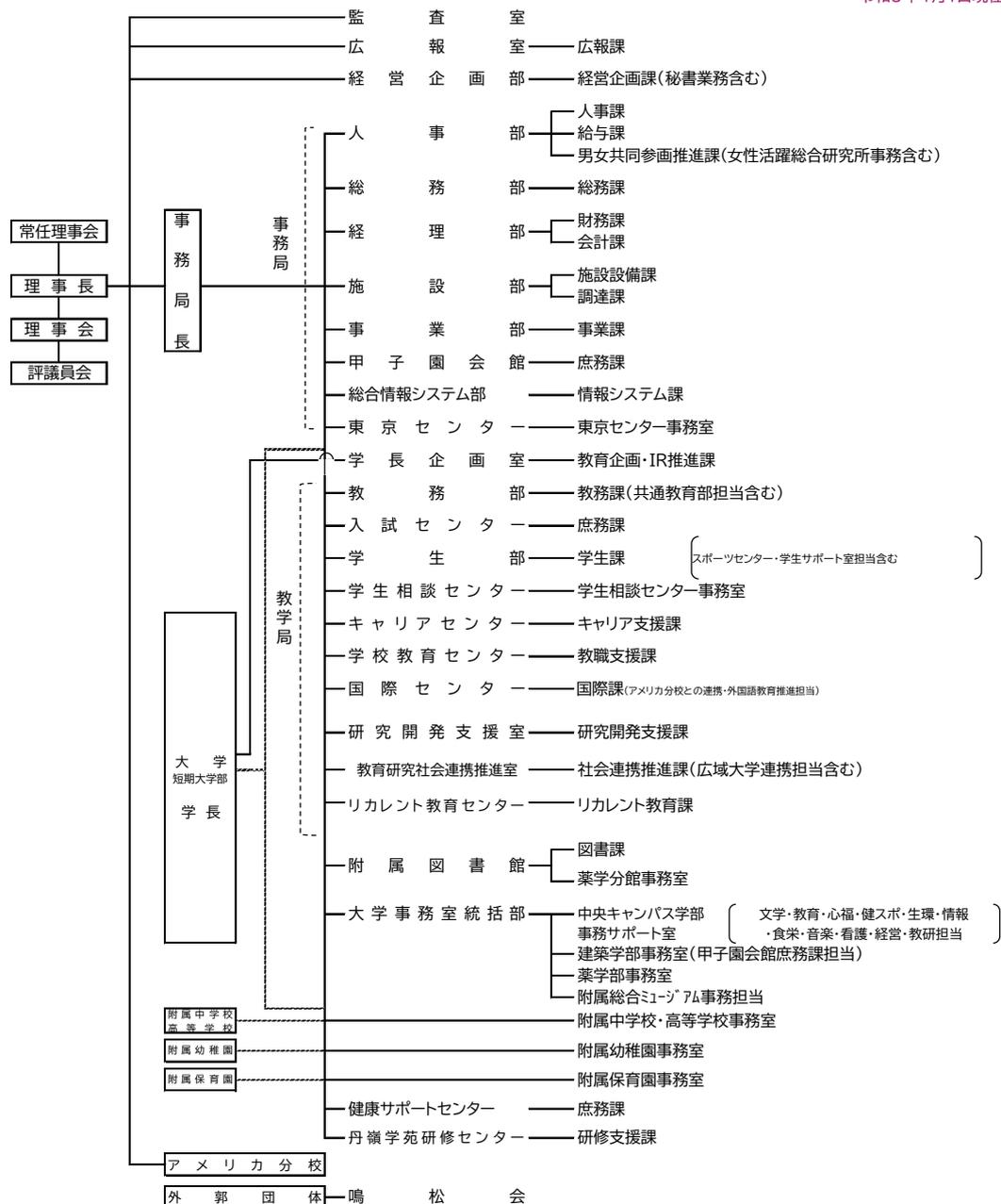
3. 附属高等学校・中学校

4. 附属幼稚園

5. 附属保育園

## (2) 事務組織

令和5年4月1日現在



## (3) 教職員数

(令和5年5月1日現在)

区分	本部	大学	短期 大学部	附属 高等学校	附属 中学校	附属 幼稚園	附属 保育園	計
教員	本務	411	43	52	33	7		546
	兼務		535	29	8	8	2	582
職員	本務	4	180	11	3	3	0	11
	兼務	25	254	8	13	13	1	26

※兼務教員は、非常勤講師と学校教育センターの特任教授(非常勤)のみをカウント

※本務職員には、強化コーチ・助手補・副手の教務職員を含む

※兼務職員には、教務助手等の教務職員を含む

## (4) 教職員の平均年齢

(令和5年5月1日現在)

教員	52.9 歳	職員	44.8 歳
本務教員	50.0 歳	本務職員	46.4 歳
兼務教員	55.8 歳	兼務職員	43.3 歳

## Ⅱ. 事業の概要

### 1 中期計画の概要

平成 31 年 2 月 25 日に学院創立 80 周年という輝かしい節目の年を迎えたことを機に、創立 100 周年を迎える 2039 年を見据え、『日本の女子大を、更新しよう。』というスローガンを掲げ、女子大学を飛躍発展させるプロジェクト「MUKOJO ACTION」をスタートさせました。

新たな時代に向けて学院全体を大きく飛躍させるための未来像として、“一生を描ききる女性力を。”という「MUKOJO Vision 2019→2039」(長期目標)とともに、“女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学として”という「MUKOJO Principles 2019→2039」(中期行動計画)を策定・公表しています。

その「MUKOJO Vision 2019→2039」及び「MUKOJO Principles 2019→2039」は、以下のとおりです。

#### (1)「MUKOJO Vision 2019→2039」

##### 一生を描ききる女性力を。

1939 年の学院創立以来、私たちは立学の精神である、  
高い知性、善美な情操、高雅な徳性を追求し、  
女子教育に取り組んできました。

女性の活躍がより望まれる時代を迎えた今、  
個性輝く女性を社会へ送り出すこと。  
それが、女子総合大学の果たすべき使命だと確信しています。  
自らの意志と行動力で可能性を拡げ、生涯を切り拓いていく。  
それは、立学の精神を新たな時代に向かって  
進化させていくことです。

今こそ、女子大が変わらなくてはならない。

一生を描ききる女性力を育む。  
武庫川学院、武庫川女子大学は  
女子教育のさらなる頂に挑みます。

## (2)「MUKOJO Principles 2019→2039」

### 女性一人ひとりのライフデザインを支える総合大学として

#### 【教育】教育の質の向上と特色の探究

- ①個性を育み、ライフデザイン力・生涯学習力を涵養する教育の推進
- ②創造性や付加価値力の育成に向けた教養教育・専門教育のさらなる充実
- ③文理融合型教育など横断型教育の推進
- ④人々や社会と繋がり、主体的に活動できる指導的女性を育成する教育の推進
- ⑤多様な学生・生徒の受け入れによる教育の活性化
- ⑥新たな価値を創造する多様な教員による教育・研究の推進
- ⑦中高大一貫教育の強化
- ⑧アメリカキャンパスを核としたグローバル教育の強化

#### 【研究】研究の高度化と多様性の追求

- ①女性研究者やプロフェッショナル(女性専門職)育成の強化
- ②多様化する社会の課題解決やイノベーション創出に向けた研究の高度化
- ③総合大学の長を生かした領域架橋や共同による独創的な研究の推進
- ④新たな価値創造を目指した女性テーマ研究の開拓
- ⑤研究ブランドの確立
- ⑥社会をリードする高度な人材育成に向けた大学院教育・研究の推進

#### 【社会貢献】地域や社会の発展への貢献

- ①学術・研究成果の社会還元
- ②社会課題の解決に向けた実践的教育や産官学共同研究の強化
- ③鳴尾エリアなど地域活性化への協力
- ④諸外国の女性高等教育進展への協力・支援

#### 【運営】教育研究環境の充実と経営基盤の磐石化

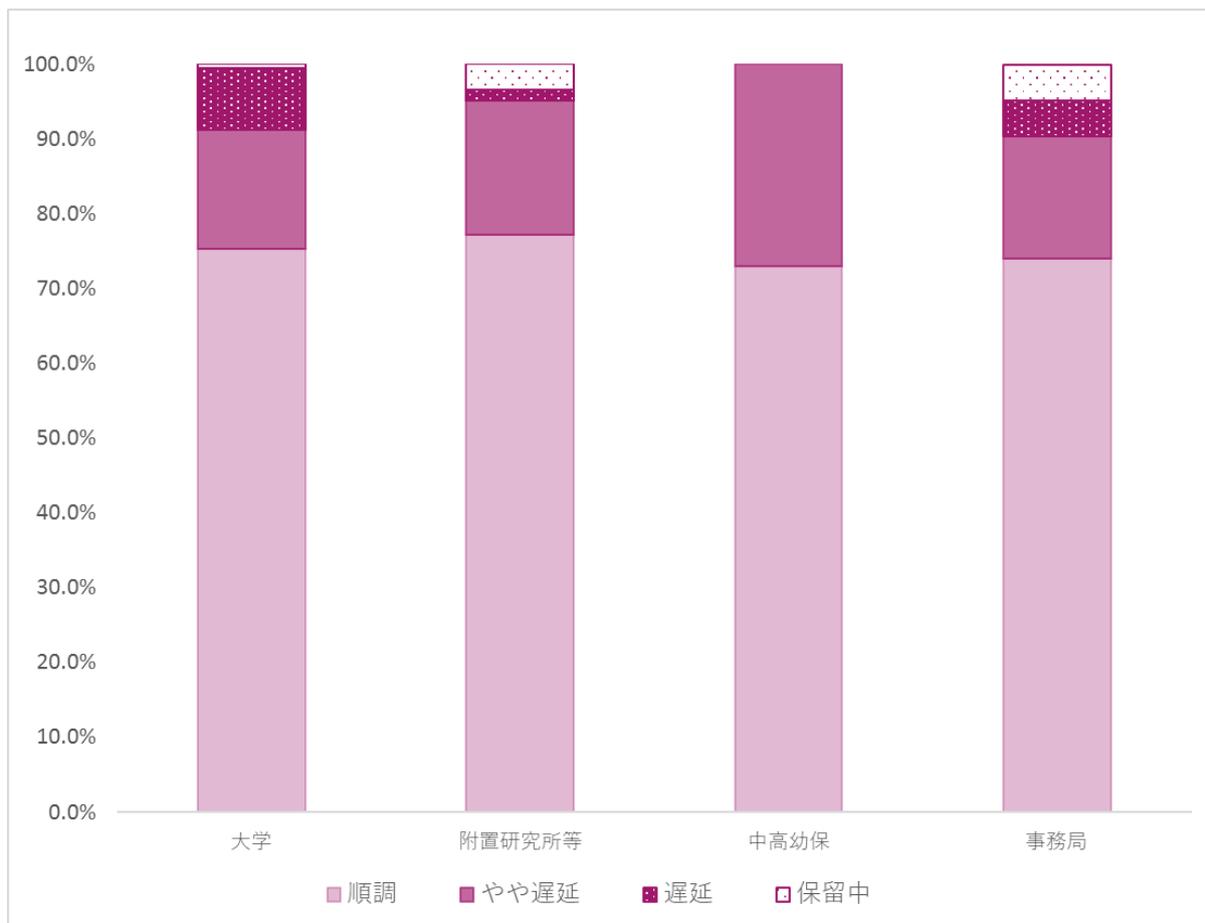
- ①教育・研究・社会貢献の高度化を支える環境の構築
- ②総合大学にふさわしい教育・研究の開拓や支援
- ③国際化促進ならびにダイバーシティの推進
- ④“教育・研究・管理運営は人なり”を追求する人材育成及び組織の活性化
- ⑤卒業生や支援者を含む MUKOJO コミュニティ形成の強化
- ⑥広報、ブランディングの戦略的推進
- ⑦財政的自立を目指した強固な財務・経営基盤の確立
- ⑧ガバナンスとコンプライアンスの強化

これらの Vision や Principles に則って、学院や我々教職員は短期的なアクションプランを設定して取り組んでいくことになっており、それらの活動を通じて女子大学の改革、あるいは女子学園の改革へとつなげていく決意です。

### (3)「MUKOJO Principles」ごとの各事業の進捗状況

「MUKOJO Principles」	順調	やや遅延	遅延	保留中	計
<b>A【教育】教育の質の向上と特色の探究</b>					
①個性を育み、ライフデザイン力・生涯学習力を涵養する教育の推進	38	4	1	0	43
②創造性や付加価値力の育成に向けた教養教育・専門教育のさらなる充実	43	3	1	0	47
③文理融合型教育など横断型教育の推進	18	4	1	1	24
④人々や社会と繋がり、主体的に活動できる指導的女性を育成する教育の推進	32	3	1	0	36
⑤多様な学生・生徒の受け入れによる教育の活性化	20	3	2	0	25
⑥新たな価値を創造する多様な教員による教育・研究の推進	17	1	1	0	19
⑦中高大一貫教育の強化	10	2	0	0	12
⑧アメリカキャンパスを核としたグローバル教育の強化	7	1	1	0	9
小計	185	21	8	1	215
<b>B【研究】研究の高度化と多様性の追求</b>					
①女性研究者やプロフェッショナル(女性専門職)育成の強化	16	6	2	0	24
②多様化する社会の課題解決やイノベーション創出に向けた研究の高度化	17	8	2	1	28
③総合大学の特長を生かした領域架橋や共同による独創的な研究の推進	13	3	1	0	17
④新たな価値創造を目指した女性テーマ研究の開拓	7	2	2	0	11
⑤研究ブランドの確立	13	3	2	0	18
⑥社会をリードする高度な人材育成に向けた大学院教育・研究の推進	6	5	2	0	13
小計	72	27	11	1	111
<b>C【社会貢献】地域や社会の発展への貢献</b>					
①学術・研究成果の社会還元	26	4	1	1	32
②社会課題の解決に向けた実践的教育や産官学共同研究の強化	22	3	0	0	25
③鳴尾エリアなど地域活性化への協力	20	2	0	0	22
④諸外国の女性高等教育進展への協力・支援	0	1	0	0	1
小計	68	10	1	1	80
<b>D【運営】教育研究環境の充実と経営基盤の磐石化</b>					
①教育・研究・社会貢献の高度化を支える環境の構築	37	15	5	7	64
②総合大学にふさわしい教育・研究の開拓や支援	10	5	2	0	17
③国際化促進ならびにダイバーシティの推進	2	4	0	1	7
④”教育・研究・管理運営は人なり”を追求する人材育成及び組織の活性化	19	5	1	0	25
⑤卒業生や支援者を含む MUKOJO コミュニティ形成の強化	12	4	0	1	17
⑥広報、ブランディングの戦略的推進	19	5	0	2	26
⑦財政的自立を目指した強固な財務・経営基盤の確立	8	4	0	1	13
⑧ガバナンスとコンプライアンスの強化	9	1	1	0	11
小計	116	43	9	12	180
計	441	101	29	15	586

#### (4) 組織別の進捗状況



進捗	大学		附置研究所等		中高幼保		事務局		全体	
順調	162	75.3%	112	77.2%	27	73.0%	140	74.0%	441	75.3%
やや遅延	34	15.8%	26	17.9%	10	27.0%	31	16.4%	101	17.2%
遅延	18	8.4%	2	1.4%	0	0.0%	9	4.8%	29	4.9%
保留中	1	0.5%	5	3.5%	0	0.0%	9	4.8%	15	2.6%
合計	215	100.0%	145	100.0%	37	100.0%	189	100.0%	586	100.0%

## 2 武庫川女子大学・大学院、武庫川女子大学短期大学部

武庫川学院創立 100 周年へ向け、さらに魅力あふれる女子総合大学を構築するため、「MUKOJO Vision」を基盤とする「MUKOJO Principles」の実現を念頭に置き、一層の教育・研究の充実と社会への貢献を行いました。「ウィズコロナ」ならびに「ポストコロナ」社会へ積極的に対応しながら、「選択と集中」「スクラップ・アンド・ビルド」を基本に、次の事業を重点的に行いました。

### (1) 学部・学科・コースの新設・再編の促進

歴史文化学科(文学部)の令和6年度開設に向け、届出を行いました。また、環境共生学部につ



いて、大学・高専機能強化支援事業の選定を受けるとともに、令和7年度開設に向けた準備を行いました。短期大学部の日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科については令和6年度から、幼児教育学科、食生活学科、生活造形学科については令和7年度から、それぞれ募集停止とする措置を行いました。

### (2) デジタル化の促進

一部の会議、各種届、決裁等でオンライン化、ペーパーレス化、迅速化を行いました。

### (3) 大学・短期大学部の認証評価結果を受けた改善改革の取り組み

令和4年度の認証評価結果を踏まえ、改善改革に向けた取り組みを行いました。

### (4) 教育体制の充実

「新しい武庫女教育」において人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」を策定し、その方針に基づき、各学部・学科における3つのポリシーに基づく取り組みの推進、教育の質向上への取り組み、カリキュラムのスリム化、授業改善、FD の充実、未来教育プログラム

SOAR の充実、附属中学校・附属高等学校との一貫教育の強化、国際化(外国語教育・国際交流・留学の促進・留学生の確保)への取り組み、学修成果の見える化、学部・学科間の連携プログラムの強化、自己点検・評価制度の実質化、IR の強化、私立大学等改革総合支援事業への取り組みを行いました。

### (5) 研究体制の充実強化

科学研究費補助金や外部資金獲得の取り組み、特色ある研究活動への取り組み・支援、若手教員の研究奨励・支援、研究成果・発表への支援、学部・学科間の共同研究の促進、研究所機能の充実・評価、大学間の連携強化等を行いました。

### (6) 社会貢献への機能強化

産学官連携への取り組み、地域社会への貢献・支援、公開講座の開催・充実、リカレント教育の推進、特許申請への支援や保有特許権の活用を行いました。

### (7) 学生募集対策

アドミッション・ポリシーに基づく大学院・大学・短期大学部の入学定員確保への取り組み、MUKOJO 未来教育総合型選抜の導入、高大連携の拡充、戦略的広報活動を行いました。

### (8) 就職・進学対策

キャリアサポートの充実、公務員対策の強化、資格取得の精選・強化、大学院への進学および編入学支援を行いました。

### (9) 女性活躍への支援

女性教職員比率の向上、卒業生・学生の夢実現への支援(スポーツ・文化活動、起業等)を行いました。また、令和5年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に申請し、選定されました。



### 3つのポリシー

<b>武庫川女子大学</b>
ディプロマ・ポリシー〔卒業認定・学位授与の方針〕 武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身につけ、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。
カリキュラム・ポリシー〔教育課程編成・実施の方針〕 武庫川女子大学は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持った人材を育成するために、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、個々の授業を通じて学生の資質・能力を高めます。
アドミッション・ポリシー〔入学者受入れの方針〕 武庫川女子大学は、“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成することをうたった「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる資質・能力を養うため、主体性・論理性・実行力を培う教育を実現する教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるのに必要な知識・技能・資質・意欲を入学前に備えた女性の入学を求めます。 また、開設する学部・学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験を複数の機会および方法で行います。

<b>武庫川女子大学短期大学部</b>
ディプロマ・ポリシー〔卒業認定・学位授与の方針〕 武庫川女子大学短期大学部は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性の育成するため、本学の教育目標に掲げる資質・能力を身につけ、所属する学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した短期大学士の学位を授与します。
カリキュラム・ポリシー〔教育課程編成・実施の方針〕 武庫川女子大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持った人材を育成するために、教養教育と専門教育を体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、個々の授業を通じて学生の資質・能力を高めます。
アドミッション・ポリシー〔入学者受入れの方針〕 武庫川女子大学短期大学部は、“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成することをうたった「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる資質・能力を養うため、主体性・論理性・実行力を培う教育を実現する教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるのに必要な、次に掲げる知識・技能・資質・意欲を入学前に備えた女性の入学を求めます。 また、開設する学部・学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験を複数の機会および方法で行います。

一部抜粋しています。全文、各学部・学科や、大学院のポリシーについては、ホームページをご覧ください。

【<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/index.html>】

QRコードはコチラ →



### 3 武庫川女子大学附属中学校・附属高等学校

大学との一層の連携を図り系統的なキャリア教育を新たに構築して「一生を描ききる女性力を」育成する、新学習指導要領に即した学習活動を展開し求められる力を育成する、という目標達成のために取り組んだ主な項目を以下に報告します。

#### (1) キャリア教育の推進

人生百年時代を見据えた「一生を描ききる女性力を」育成するため、キャリア教育のシラバス・記録・ポートフォリオを兼ねた、キャリアノートの導入部を作成しました。次年度から活用を始め、3年間でノートを完成させます。

#### (2) 中高大連携の強化

出張講義・入学前教育・「先取り履修」等を引き続き実施しました。次年度の新コース設置に向けて、大学の教育学部および経営学部の教員と探究活動の実施計画を作成しました。



#### (3) 「一生を描ききる女性力を」育成する教育課程の作成と実施

次年度の新コースにおける教育課程について、立学の精神を踏まえるとともに、新学習指導要領で求められる探究活動を重点化した教育課程を、教職員全員で議論を重ね作成しました。

##### ① 探究活動の実施

中高全学年において、土曜日に2時間連続で探究活動を行うための、「MSタイム」を実施しました。また、各教科において、探究的な活動を取り入れた授業を展開するための研究を進めました。



##### ② データサイエンス(以下 DS)の実施

中学校では、全学年でDSを実施しました。高校では1年、2年ともに「情報科学Ⅰ」の内容にDSの内容を盛り込むとともに、3年では選択で「情報科学Ⅱ」や「プログラミング」を履修しました。

#### (4) きめ細かな生徒指導

##### ① 特別支援委員会および不登校委員会の機能強化

サポートルーム活用にあたって、当番職員が付くなどの環境を整え、年々増加している特別な配慮を要する生徒等が、登校し諸活動が行いやすくなるよう取り組みました。

##### ② 部活動に対する考え方の多様性に対応する指導

全国大会に出場する部が多くある一方で、順位等にこだわらない活動を行っている部もあります。多くの生徒が、主体的に取り組むことができる部の在り方について、校友会の支援のあり方などを含めて検討を続けました。

#### (5) 教職員の研修の充実

教職員の力量を高めるべく、以下の項目の研修に取り組みました。

- ① 本校の使命
- ② 授業研究
- ③ 生徒指導
- ④ 特別な支援

## 4 武庫川女子大学附属幼稚園

本年度は、昨年度に引き続き感染症対策を行いながら、教育課程の編成をはじめ、大学の附属幼稚園として教育学部や他学部との連携を密にした取組を展開し、教育の質の向上を目指しました。環境面では、現在の安全基準に準じた遊具の設置や園庭環境整備を図ることができました。また、長年の懸案であった菜園のブロック塀の改修とともに畑を広くし、環境整備を行いました。幼児にとって望ましい環境を整えながら、心身ともに豊かな幼児の育成を目指して教育を推進していく重要性を感じています。

### (1)教育について

幼児期は、活動意欲が高まる時期であり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい『10』の姿」を踏まえ、遊びの中で好奇心や探求心を育て、思考力の芽生えを培っていくことをめざして、家庭とも連携して教育を推進してきました。特に、心と体の健康は相互に密接な関係があることを踏まえ、運動活動の教具を充実させ、幼児の発達・運動能力・活動のより豊かな向上を図りました。さらに、遊びの幅が豊かに広がるように、タブレットやデジタルマイクروسコープなどのICT機器を活用して保育を展開してきました。また、クラス活動だけでなく、異年齢の幼児がかかわる『わくわくどっきりらんど たいむ』を行い、相手を思いやり、憧れの気持ちをもったりしながら、「自我」「自己」を形成する「発達の基礎」を築くことを目指しました。毎週実施している絵本の貸し出しでは、図書除菌機を活用し、安心して絵本に親しむ環境を整え、読み聞かせ等、様々な絵本活動を通じて幼児の言語能力や理解力、心の発達を促すことができるように教育内容を検討し実践しました。



### (2)保育の研究、職員研修について

幼児の実態から課題を読み取り、ねらいを正確にもち、教育課程の編成および指導計画の見直しを行い、『武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第2集』を発行しました。ICT教育については、近隣の教育機関と連携し、『第14回幼児教育実践発表会(於:大妻女子大学)』で教育研究の実践発表を行い、さらに教育内容の充実を図りました。

その他にも、いろいろな研修会に参加して、自らの専門性の向上を図り、学んだ内容を園全体で共有し、保育実践の質および専門性の向上を図ることにつなげられました。

### (3)大学、附属中学校・附属高等学校、附属保育園との連携について

大学の健康・スポーツ科学部と連携した「運動遊び」では、幼児の実態に応じた指導を仰ぎ、園内でも実践の充実に努め、研究データを基に話し合い、次年度へつなぐことを確認しました。また、食物栄養科学部の学生との食育教育、生活環境学部の学生とのキッズドリームウエア活動、音楽学部の学生との音楽コンサート、各学部等の学生の卒業研究への協力等、今年度はコロナ禍前までの活動を取り戻すよう努めました。

附属中学校・附属高等学校、附属保育園とは、交流会(6月・10月)、クリスマスツリー点灯式をはじめ、附属高等学校の教育学部進学予定者との保育参観等の交流活動を行いました。また、「運動会」および「修了式」のライブ配信を試験的に行い、保護者から大変好評を得、今後の継続も望まれています。



## 5 武庫川女子大学附属保育園

今年度は、コロナ禍で中止していた様々な事業を再開することができました。

昨年度から導入を考えていた ICT 化については今年度末に何とか準備が整い、令和6年度からスタートできる運びとなりました。

保護者がより利用しやすいシステムの導入と職員の業務改善を図るため、職員研修を重ねているところです。

### (1)豊かな発達支援と保育サービス向上に向けた取り組み

子どもの主体性や障害児保育、人権保育、不適切保育等について園内研修を行い、保育の中で職員一人ひとりに意欲を持てるような働きかけを丁寧に実践し、資質向上に努めました。

講師による研修については園の行事との日程調整が上手くいかず十分に進めることができませんでした。次年度は大学附属という環境を活かし、大学の教員と連携した研修を計画したいと考えています。

### (2)保護者支援の取り組み

コロナ禍において、土曜日開催していた保育参加・参観・懇談会は保護者から評価をいただいたため、今年度も土曜開催で実施しました。附属保育園は土曜日に都合がつきやすい保護者が多いため、どのクラスも参加率が高く、内容や実施時期についても満足してくださる方が多くありました。

園だよりや連絡表については写真を多く用いて保護者に関心を持っていただけるような工夫をしました。

写真を取り入れることで保育士の業務が多くなる、という課題がありましたが、次年度からのICT化によって軽減されると考えています。



また、今年度初の試みとして、子育て講演会を実施しました。附属保育園の嘱託医師を講師とし、在園児の保護者や保育士、子育て広場利用の保護者に向けて「心身ともに健康な身体作りについて」「発語を促すかわり方」をテーマに講演会を実施しました。今後も地域に開かれた保育園として全ての保護者に向けた講演会を継続していきたいと思います。

### (3)地域子育て支援、福祉サービスを進めるための取り組み

コロナ禍が明けると、一時預かり保育の需要が急激に多くなりました。利用希望者は0・1歳児が多いため、担当者1名では一日に2～4名しか受け入れることができず、本当に必要としている方へ提供できないことが課題として残りました。

地域の自治会、老人会、中学生のトライやるウィーク、高校生のインターンシップ、幼稚園・小学校との交流事業は全てコロナ禍前の状況に戻り、各交流会には積極的に参加することができました。



### (4)大学附属としての役割を担った取り組み

学生ボランティアの受け入れを再開しました。大学の教育学部の教員と連携し、学生への登録案内を行いました。その結果、前期・後期合わせて延べ 74 名もの学生が附属保育園の保育に参加してくださいました。

実習については、武庫川女子大学だけではなく他の養成校2校からも依頼があり、多くの実習生を受け入れることができました。

次世代を担う保育士、栄養士、看護師、心理士等の養成の一助になることを願い、今後も継続していきます。

## 6 事務局

私立学校法や大学等設置基準の改正、さらには教育未来創造会議の提言を受けた諸改革を進めました。MUKOJO Vision、MUKOJO Principles、「新しい武庫女教育」の実現のため、職員一人ひとりの力を結集し、重点施策事項に取り組みました。

### (1)教育研究の質的向上とキャンパス整備

学修者本位の教育の実現に向けた教育改革の推進、MUSC との連携強化、学際的・共同研究や外部資金獲得当の研究活動の活性化、産学官連携・交流、地域貢献の積極的推進、西宮北口キャンパスを拠点とするリカレント教育事業への取り組み、施設設備整備・維持計画と防災等リスク管理体制の構築を進めました。



### (2)業務の効率化の改善・推進

ユーザーにとって便利なサービス提供、ムダ・ムリ・ムラを排除する業務改善、ICT・DX化の推進と業務のスリム化、超過時間勤務の削減、教職協働に資する組織構築と指揮命令系統や権限移譲等の明確化を進めました。

### (3)学生生徒・卒業生・父母等を加えた「教職学卒保協働」の視点に立った満足度や信頼感の向上

本学院の特色(ブランディング)を活用した広報戦略と学生・生徒・園児募集の強化、キャリア教育の推進、就職および資格取得支援、安心・安全・快適な学生生活のための環境(条件)の充実、奨学金制度の充実、スポーツ・文化活動への支援、メンタルヘルスを含めた健康維持・増進と合理的配慮の充実、学友会、校友会、教育後援会、育友会および鳴松会の活動支援を進めました。

### (4)健全で安定的な財政基盤の確立

事業の延期や廃止など「選択と集中」による資金の有効活用、予測可能な緊急事態に備えた財源確保、中期事業計画・財政計画に基づく堅実な資金管理の運用を進めました。

### (5)自己点検・評価活動や内部質保証を教学マネジメントに連動させたPDCAサイクルの機能充実

大学・短期大学部の令和4年度認証評価結果を踏まえ、事務運営体制に関する改善改革を進めました。

### (6)中長期の経営戦略への貢献

IR 機能の充実とその戦略的活用、SD・FD や各種研修の積極的参加による職員



力の向上、情報の共有化と横断的な連携協力体制の促進、若手職員・女性職員の積極的登用による組織の活性化を進めました。

## Ⅲ. 財務の概要

### 1 令和5年度決算の概要

#### (1) 令和5年度 資金収支計算書について

##### ① 資金収支決算

令和5年度資金収支決算は、前年度繰越支払資金57億9,296万円に対し、収入総額が263億2,708万円、支出総額が235億3,410万円となり、支払資金として27億9,298万円増加し、翌年度繰越支払資金は85億8,594万円となりました。

##### ② 収入の部

学生生徒等納付金収入は147億6,187万円で、学生生徒園児等の所定の授業料収入のほか、入学金収入・実験実習料収入・教育充実費収入などを含みます。

手数料収入は3億6,131万円で、主なものは入学検定料収入です。

寄付金収入は5,161万円で、学院創立80周年記念「夢と虹基金」への寄付金や卒業生からの特別寄付金、企業からの研究助成寄付金や奨学資金などです。

補助金収入は23億6,129万円で、国庫補助金収入と地方公共団体補助金収入が主なもので、国庫補助金は、私立大学等経常費補助金のほか、修学支援新制度授業料等減免交付金、保育園の子どものための教育・保育給付費などです。地方公共団体補助金は、兵庫県経常費補助金、授業料軽減補助金や西宮市私学振興補助金、保育園の西宮市特定教育・保育施設助成金などが含まれます。

資産売却収入は44万円で、ピアノ買替に伴う売却収入です。

付随事業・収益事業収入は1億9,488万円で、学寮などの補助活動収入、診療所収入、オープンカレッジなど各種公開講座収入、企業からの委託研究などの受託事業収入、預り保育事業収入、保育所収入です。

##### 資金収支計算書

『資金収支計算書』は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにすること、当該年度における支払資金の経緯・てん未を明らかにすることを目的としています。すなわち、資金の動きをすべて網羅した計算書で、収入には学納金収入はもとより補助金収入・前受金収入・預り金収入などが含まれ、支出では人件費支出をはじめ諸経費・資産運用支出・前払金支払支出などが含まれます。実際の支払資金の収入および支出は、当該年度に収入すべき額・支出すべき額に前年度末と当年度末の未収入金・未払金・前払金・前受金を加減算して表現しています。

受取利息・配当金収入は30億9,083万円で、第3号基本金引当特定資産(奨学基金運用資産)、学術研究振興引当特定資産、減価償却引当特定資産などの運用による受取利息・配当金です。

雑収入は5億6,813万円で、私大退職金財団および県退職金財団からの交付金収入、科学研究費補助金間接経費(科学研究費補助金の内の学校経費補助金)、施設設備利用料収入が主なものです。

借入金等収入は25億円で、日本私立学校振興・共済事業団からの教育環境整備費借入です。

前受金収入は24億4,475万円で、3月末を決算期とするため翌年度に入学する学生生徒園児の納付金および学寮などの補助活動の各種前受金を含みます。

その他の収入は27億9,302万円で、第2号基本金引当特定資産、第3号基本金引当特定資産などからの取崩収入、学生貸付金回収収入、前期末未収入金収入のほか、修学旅行費などの預り金受入収入などです。

資金収入調整勘定は△28億106万円で、以上の資金収入のうち、期末時点で未収入金となったものと、前年度に入金済の前期末前受金の額を控除するものであり、これにより当年度の資金の実質的な収入額を明らかにするものです。

### ③支出の部

人件費支出は 99 億 3,377 万円で、本務教職員給与、兼務教職員給与、退職金、所定福利費などの支出です。

経費は主たる用途にしたがって教育研究経費と管理経費に区分します。

教育研究経費支出は 47 億 6,642 万円で、大学・短期大学部、附属高等学校・中学校、附属幼稚園の教育研究活動に要した経費です。次の管理経費ともども各部門において支出抑制を図るなど経費削減に努めました。

管理経費支出は 11 億 6,899 万円で、主として法人の管理運営業務に要する経費です。学生生徒園児の募集経費や広報費のほか、教育研究活動以外に使用する施設設備の維持管理費、保育所経費等も含まれます。

施設関係支出は 21 億 4,445 万円で、建物支出および構築物支出などです。

設備関係支出は 3 億 4,473 万円で、教育研究用並びに管理用機器備品、図書館資料などの購入費です。

資産運用支出は 45 億 6,140 万円で、第 3 号基本金引当特定資産繰入支出のほか、施設拡充引当特定資産繰入支出、減価償却引当特定資産繰入支出、危機対応資金引当特定資産繰入支出などに充てるための各種引当特定資産への支出等です。

その他の支出は 10 億 5,495 万円で、学生長期貸付金、学生短期貸付金、前期末未払金、修学旅行費などの預り金、前払金などの支払支出です。

資金支出調整勘定は△4 億 4,061 万円で、上述の資金支出のなかに、本年度に資金の動きがなく期末時点で未払金となったもの(各事業団共済掛金や 3 月分光熱水費など)、および前年度に支払済の前期末前払金(令和 4 年度支払の令和 5 年度のための洋雑誌費や通勤手当など)を控除して、当年度の資金の実質的な支出額を明らかにするものです。

## (2)令和5年度 事業活動収支計算書について

### ①教育活動収支

収入面では、学生生徒等納付金は 147 億 6,187 万円、手数料が 3 億 6,131 万円、寄付金 5,380 万円、経常費等補助金 23 億 6,129 万円、付随事業収入 1 億 9,488 万円、雑収入 5 億 5,100 万円となり、教育活動収入計は、182 億 8,416 万円となりました。

一方、支出面では、人件費 99 億 2,236 万円、教育研究経費 74 億 2,915 万円、管理経費 15 億 1,629 万円となり、教育活動支出計は、188 億 6,787 万円となりました。

これら収支の状況から、教育活動収支は 5 億 8,370 万円の支出超過となりました。

### ②教育活動外収支(～経常収支)

受取利息・配当金は 30 億 9,083 万円となりました。この結果、教育活動外収支は 31 億 796 万円の収入超過となりました。

教育活動、教育活動外の各収支差額を合計すると、経常収支は 25 億 2,425 万円の収入超過となりました。

### ③特別収支(～基本金組入前収支差額)

特別収入は資産売却差額、現物寄付の 2,862 万円、特別支出は建物などの資産処分差額の 6,785 万円となりました。

この結果、特別収支は 3,923 万円の支出超過となり、基本金組入前当年度収支差額は 24 億 8,503 万円の収入超過となりました。

#### 事業活動収支計算書

『事業活動収支計算書』は、学校法人の当該会計年度における教育研究活動とそのほかの動きを学校法人会計基準に基づき表示した資料です。

①教育活動収支、②教育活動外収支、③特別収支の 3 つの区分で表示し、①と②の合計が経常収支となり、③の特別収支を合計し、基本金組入前収支差額を求め、そして基本金組入額を差し引き、当年度収支差額を計算しています。

事業活動収支計算書は、学校法人の財政の永続的な維持を図るにあたっての資料を提供するもので、毎会計年度に当該会計年度中における事業活動収入、事業活動支出の内容および均衡の状態を明らかにするために作成される報告書です。いわば、事業活動収支計算書は採算状況を表し、貸借対照表と合わせて財政の健全性を表示するものです。

### ④基本金組入額

第 1 号基本金に、本年度取得した建物・構築物などの有形固定資産の取得額から、除却等による減少高を控除した額を組み入れました。第 2 号基本金から第 1 号基本金に、本年度取得した有形固定資産の、先行組入額 4 億 1,000 万円を振替えました。第 3 号基本金は、4 種類の奨学基金において、運用果実を組入れ、それぞれの目的の事業に要した額を取り崩しました。

これらの結果、本年度の基本金組入額は 8 億 944 万円となりました。

### ⑤当年度収支差額、翌年度繰越額

以上により、令和 5 年度の当年度収支差額は 16 億 7,559 万円の収入超過となり、翌年度繰越支出超過額は、3 億 4,431 万円となりました。

### (3)令和5年度 貸借対照表について

資産の部については、校地校舎等の有形固定資産 960 億 2,965 万円、特定資産 895 億 5,254 万円、その他の固定資産 3 億 135 万円および現預金等の流動資産 92 億 2,261 万円からなります。

固定資産は前年度末と比べ 23 億 8,633 万円増加しました。

流動資産については、前年度末と比べ 26 億 9,789 万円増加しました。

負債の部については、長期借入金および退職給与引当金等の固定負債 50 億 3,978 万円と、前受金などの流動負債 33 億 7,305 万円からなり、合計 84 億 1,284 万円で前年度末と比べ 25 億 9,919 万円増加しました。

基本金については、8 億 944 万円増加しました。

繰越収支差額については、翌年度繰越収支差額は△3 億 4,431 万円となりました。

#### 貸借対照表

『資金収支計算書』および『事業活動収支計算書』は、一定期間(会計年度)の収支状況を表しているのに対して、『貸借対照表』は、学校法人の一定時点(決算期末日)における資産・負債・純資産の内容および金額を明示し、学校法人としての財政状態を明らかにするものです。

言い換えますと、年度末における法人の資産額を明らかにし、その資産額が借入金・前受金等の負債、自己資金により調達した基本金および事業活動収支計算書当年度収支差額、前年度繰越収支差額、基本金取崩額を集計した額の繰越収支差額からなっていることを表示しています。

純資産の部合計は、土地・建物・機器備品・図書等の基本財産に現預金を加えた総資産 1,951 億 615 万円から総負債 84 億 1,284 万円を差し引いた額 1,866 億 9,331 万円となります。

負債及び純資産の部合計 1,951 億 615 万円については、負債の 84 億 1,284 万円と純資産の部合計 1,866 億 9,331 万円を加えた合計額です。

(本文中の金額については、原則四捨五入により万円単位で表示しています。合計で数値が計算上一致しない場合があります。)

## 2 計算書等の経年比較等

### (1)貸借対照表

(単位:千円)

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	5年間平均
固定資産	181,215,595	181,453,935	182,883,921	183,497,215	185,883,541	182,986,841
流動資産	9,217,898	8,489,763	7,412,401	6,524,715	9,222,607	8,173,477
資産の部合計	190,433,493	189,943,698	190,296,322	190,021,930	195,106,148	191,160,318
固定負債	2,711,131	2,545,962	2,605,670	2,551,195	5,039,784	3,090,748
流動負債	3,690,754	3,178,999	3,606,041	3,262,452	3,373,053	3,422,260
負債の部合計	6,401,885	5,724,961	6,211,711	5,813,647	8,412,837	6,513,008
基本金	186,976,027	185,985,303	187,121,817	186,228,174	187,037,617	186,669,788
繰越収支差額	△ 2,944,420	△ 1,766,566	△ 3,037,207	△ 2,019,891	△ 344,306	△ 2,022,478
純資産の部合計	184,031,608	184,218,737	184,084,611	184,208,283	186,693,311	184,647,310
負債及び純資産の部合計	190,433,493	189,943,698	190,296,322	190,021,930	195,106,148	191,160,318

### (2)収支計算書

#### ①資金収支計算書

(単位:千円)

収入の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
学生生徒等納付金収入	14,414,127	14,686,525	14,266,714	14,811,886	14,761,874	14,588,225
手数料収入	559,646	460,223	452,039	409,281	361,313	448,500
寄付金収入	197,752	98,150	45,536	48,318	51,613	88,274
補助金収入	1,861,353	2,320,780	2,130,284	2,151,370	2,361,294	2,165,016
資産売却収入	1,745	1,040	540	494	440	852
付随事業・収益事業収入	227,098	168,401	196,156	177,812	194,879	192,869
受取利息・配当金収入	1,363,783	1,677,114	1,531,526	2,422,656	3,090,835	2,017,183
雑収入	679,531	484,345	500,984	683,709	568,125	583,339
借入金等収入	0	0	0	0	2,500,000	500,000
前受金収入	2,763,694	2,290,068	2,585,815	2,417,810	2,444,753	2,500,428
その他の収入	10,145,035	10,049,593	3,557,867	2,413,488	2,793,021	5,791,801
資金収入調整勘定	△ 3,142,129	△ 3,127,607	△ 2,657,153	△ 3,101,735	△ 2,801,065	△ 2,965,938
前年度繰越支払資金	8,849,564	8,434,225	7,832,782	6,803,819	5,792,959	7,542,670
収入の部合計	37,921,199	37,542,857	30,443,090	29,238,908	32,120,041	33,453,219

支出の部	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
人件費支出	9,811,705	9,687,066	9,720,194	10,031,876	9,933,774	9,836,922
教育研究経費支出	4,239,328	4,958,930	4,941,914	5,176,923	4,766,418	4,816,703
管理経費支出	1,821,994	1,472,230	1,202,444	1,140,493	1,168,993	1,361,231
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0
施設関係支出	7,751,215	8,044,116	3,945,612	2,013,189	2,144,446	4,779,716
設備関係支出	1,096,609	654,430	856,141	726,397	344,726	735,661
資産運用支出	4,072,659	4,095,627	2,430,238	3,494,694	4,561,396	3,730,923
その他の支出	1,022,290	1,133,192	1,060,766	1,229,227	1,054,952	1,100,085
資金支出調整勘定	△ 328,826	△ 335,517	△ 518,038	△ 366,850	△ 440,607	△ 397,968
翌年度繰越支払資金	8,434,225	7,832,783	6,803,819	5,792,959	8,585,943	7,489,946
支出の部合計	37,921,199	37,542,857	30,443,090	29,238,908	32,120,041	33,453,219

## ②活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
教育活動による資金収支						
教育活動資金収入計	17,926,341	18,153,917	17,584,014	18,273,471	18,281,978	18,043,944
教育活動資金支出計	15,873,029	16,118,227	15,864,553	16,349,293	15,869,185	16,014,857
差引	2,053,312	2,035,690	1,719,461	1,924,178	2,412,793	2,029,087
調整勘定等	148,642	△ 312,867	372,893	△ 343,329	232,700	19,608
教育活動資金収支差額	2,201,954	1,722,823	2,092,354	1,580,849	2,645,493	2,048,695
施設整備等活動による資金収支						
施設整備等活動資金収入計	8,366,554	8,055,424	2,308,240	1,209,399	1,247,440	4,237,411
施設整備等活動資金支出計	11,776,297	10,001,917	5,458,154	3,664,036	4,133,022	7,006,685
差引	△ 3,409,743	△ 1,946,493	△ 3,149,914	△ 2,454,637	△ 2,885,582	△ 2,769,274
調整勘定等	0	13,512	100,129	△ 113,267	△ 374	0
施設整備等活動資金収支差額	△ 3,409,743	△ 1,932,981	△ 3,049,785	△ 2,567,904	△ 2,885,956	△ 2,769,274
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 1,207,789	△ 210,158	△ 957,431	△ 987,055	△ 240,463	△ 720,579
その他の活動による資金収支						
その他の活動資金収入計	2,662,562	3,191,471	2,425,479	3,269,058	6,638,116	3,637,338
その他の活動資金支出計	1,870,114	3,582,755	2,496,932	3,292,863	3,604,669	2,969,467
差引	792,448	△ 391,284	△ 71,453	△ 23,805	3,033,447	667,871
調整勘定等	0	0	△ 78	0	0	△ 16
その他の活動資金収支差額	792,448	△ 391,284	△ 71,531	△ 23,805	3,033,447	667,855
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 415,341	△ 601,442	△ 1,028,962	△ 1,010,860	2,792,984	△ 52,724
前年度繰越支払資金	8,849,564	8,434,225	7,832,782	6,803,819	5,792,959	7,542,670
翌年度繰越支払資金	8,434,225	7,832,782	6,803,819	5,792,959	8,585,944	7,489,946

### ③事業活動収支計算書

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	5年間平均
教育活動収支						
事業活動収入の部						
学生生徒等納付金	14,414,127	14,686,528	14,266,714	14,811,886	14,761,874	14,588,227
手数料	559,646	460,223	452,039	409,281	361,313	448,500
寄付金	187,802	47,966	51,439	51,498	53,799	78,501
経常費等補助金	1,861,353	2,317,726	2,122,584	2,142,465	2,361,294	2,161,084
付随事業収入	227,098	168,401	196,156	177,812	194,880	192,869
雑収入	678,505	474,219	500,984	683,709	551,004	577,684
教育活動収入計	17,928,531	18,155,063	17,589,916	18,276,651	18,284,164	18,046,865
事業活動支出の部						
人件費	9,944,474	9,521,975	9,779,824	9,977,343	9,922,362	9,829,195
教育研究経費	6,956,550	7,903,430	7,899,253	8,105,692	7,429,153	7,658,816
管理経費	2,242,713	1,905,704	1,630,761	1,529,587	1,516,292	1,765,011
徴収不能額等	0	0	0	0	58	12
教育活動支出計	19,143,737	19,331,109	19,309,838	19,612,622	18,867,865	19,253,034
教育活動収支差額	△ 1,215,206	△ 1,176,046	△ 1,719,922	△ 1,335,971	△ 583,701	△ 1,206,169
教育活動外収支						
事業活動収入の部						
受取利息・配当金	1,363,783	1,677,114	1,531,526	2,422,656	3,090,835	2,017,183
その他の教育活動外収入	1,026	10,125	0	0	17,121	5,654
教育活動外収入計	1,364,809	1,687,239	1,531,526	2,422,656	3,107,956	2,022,837
事業活動支出の部						
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0	0	0	0
教育活動外収支差額	1,364,809	1,687,239	1,531,526	2,422,656	3,107,956	2,022,837
経常収支差額	149,603	511,193	△ 188,396	1,086,685	2,524,255	816,668
特別収支						
事業活動収入の部						
資産売却差額	1,730	540	380,439	489	440	76,727
その他の特別収入	45,721	81,705	34,618	39,119	28,181	45,869
特別収入計	47,451	82,245	415,057	39,608	28,621	122,596
事業活動支出の部						
資産処分差額	280,872	406,309	360,787	1,002,621	67,847	423,687
その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
特別支出計	280,872	406,309	360,787	1,002,621	67,847	423,687
特別収支差額	△ 233,421	△ 324,064	54,270	△ 963,013	△ 39,226	△ 301,091
基本金組入前当年度収支差額	△ 83,818	187,129	△ 134,126	123,672	2,485,028	515,577
基本金組入額合計	1,180,713	0	△ 1,136,515	0	△ 809,442	△ 153,049
当年度収支差額	1,096,895	187,129	△ 1,270,641	123,672	1,675,586	362,528
前年度繰越収支差額	△ 4,041,315	△ 2,944,419	△ 1,766,566	△ 3,037,207	△ 2,019,891	△ 2,761,880
基本金取崩額	0	990,724	0	893,644	0	376,874
翌年度繰越収支差額	△ 2,944,420	△ 1,766,566	△ 3,037,207	△ 2,019,891	△ 344,306	△ 2,022,478
(参考)						
事業活動収入計	19,340,792	19,924,547	19,536,499	20,738,914	21,420,741	20,192,299
事業活動支出計	19,424,609	19,737,418	19,670,625	20,615,243	18,935,713	19,676,722

### (3)財務比率

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	-0.4%	0.9%	-0.7%	0.6%	11.6%
基本金組入後収支比率	事業活動支出/(事業活動収入-基本金組入額)	94.7%	99.1%	106.9%	99.4%	91.9%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	74.7%	74.0%	74.6%	71.6%	69.0%
人件費比率	人件費/経常収入	51.5%	48.0%	51.1%	48.2%	46.4%
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	36.1%	39.8%	41.3%	39.2%	34.7%
管理経費比率	管理経費/経常収入	11.6%	9.6%	8.5%	7.4%	7.1%
流動比率	流動資産/流動負債	249.8%	267.1%	205.6%	200.0%	273.4%
負債比率	総負債/純資産	3.5%	3.1%	3.4%	3.2%	4.5%
純資産構成比率	純資産/(総負債+純資産)	96.6%	97.0%	96.7%	96.9%	95.7%
基本金比率	基本金/基本金要組入額※ ※基本金要組入額=基本金+基本金未組入額	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額/教育活動資金収入計	12.3%	9.5%	11.9%	8.7%	14.5%

### (4)収益事業の状況

#### ①貸借対照表

(単位:千円)

	(第12期) 平成30年度末	(第13期) 令和元年度末	(第14期) 令和2年度末	(第15期) 令和3年度末	(第16期) 令和4年度末	(第17期) 令和5年度末
流動資産	76,664	85,877	95,258	60,979	76,865	94,330
固定資産	759	2,163	4,474	11,972	8,976	6,099
資産合計	77,423	88,040	99,732	72,951	85,841	100,429
流動負債	8,946	11,861	19,467	21,744	25,941	27,331
固定負債	—	—	—	—	—	—
負債合計	8,946	11,861	19,467	21,744	25,941	27,331
純資産合計	68,477	76,179	80,265	51,207	59,900	73,098
負債・純資産合計	77,423	88,040	99,732	72,951	85,841	100,429

#### ②損益計算書

(単位:千円)

	(第12期) 平成30年度末	(第13期) 令和元年度末	(第14期) 令和2年度末	(第15期) 令和3年度末	(第16期) 令和4年度末	(第17期) 令和5年度末
売上高	466,894	468,724	411,936	427,181	405,728	397,997
売上原価	428,528	428,992	396,125	408,320	372,877	365,079
販売管理費	36,447	33,788	45,963	48,151	25,404	24,052
営業外損益	1,359	1,757	4,238	233	1,245	4,332
特別損益	△25,000	0	0	0	0	0
当期純損益	△21,722	7,701	△25,914	△29,057	8,692	13,198

## 令和5年度 事業報告書



学校法人武庫川学院

学校法人武庫川学院



〒663-8558  
兵庫県西宮市池開町137番地  
TEL0798-47-1212(代表)

武庫川女子大学  
武庫川女子大学短期大学部



[中央キャンパス]  
文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・  
スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、  
食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学  
部、文学研究科、臨床教育学研究科、健康・ス  
ポーツ科学研究科、生活環境学研究科、食物栄  
養科学研究科、看護学研究科、音楽専攻科、短  
期大学部

〒663-8558  
兵庫県西宮市池開町6-46  
TEL0798-47-1212(代表)

[浜甲子園キャンパス]  
薬学部、薬学研究科

〒663-8179  
兵庫県西宮市甲子園九番町11-68  
TEL0798-45-9931(代表)

[上甲子園キャンパス]  
建築学部、建築学研究科

〒663-8121  
兵庫県西宮市戸崎町1-13  
TEL0798-67-0079(代表)

[西宮北口キャンパス]

〒662-0833  
兵庫県西宮市北昭和町9-32  
TEL0798-31-3341(代表)

[北摂キャンパス]  
丹嶺学苑研修センター

〒651-1512  
兵庫県神戸市北区長尾町上津4553-1  
TEL078-986-7381

[アメリカ分校]

4000 W.Randolph Rd. Spokane,  
WA 99224-5279 U.S.A.  
TEL010-1-509-328-2971(代表)

武庫川女子大学附属高等学校  
武庫川女子大学附属中学校



〒663-8143  
兵庫県西宮市枝川町4-16  
TEL0798-47-6436(代表)

武庫川女子大学附属幼稚園



〒663-8558  
兵庫県西宮市池開町10-3  
TEL0798-45-3537

武庫川女子大学附属保育園



〒663-8184  
兵庫県西宮市鳴尾町4-14-29  
TEL0798-44-3025